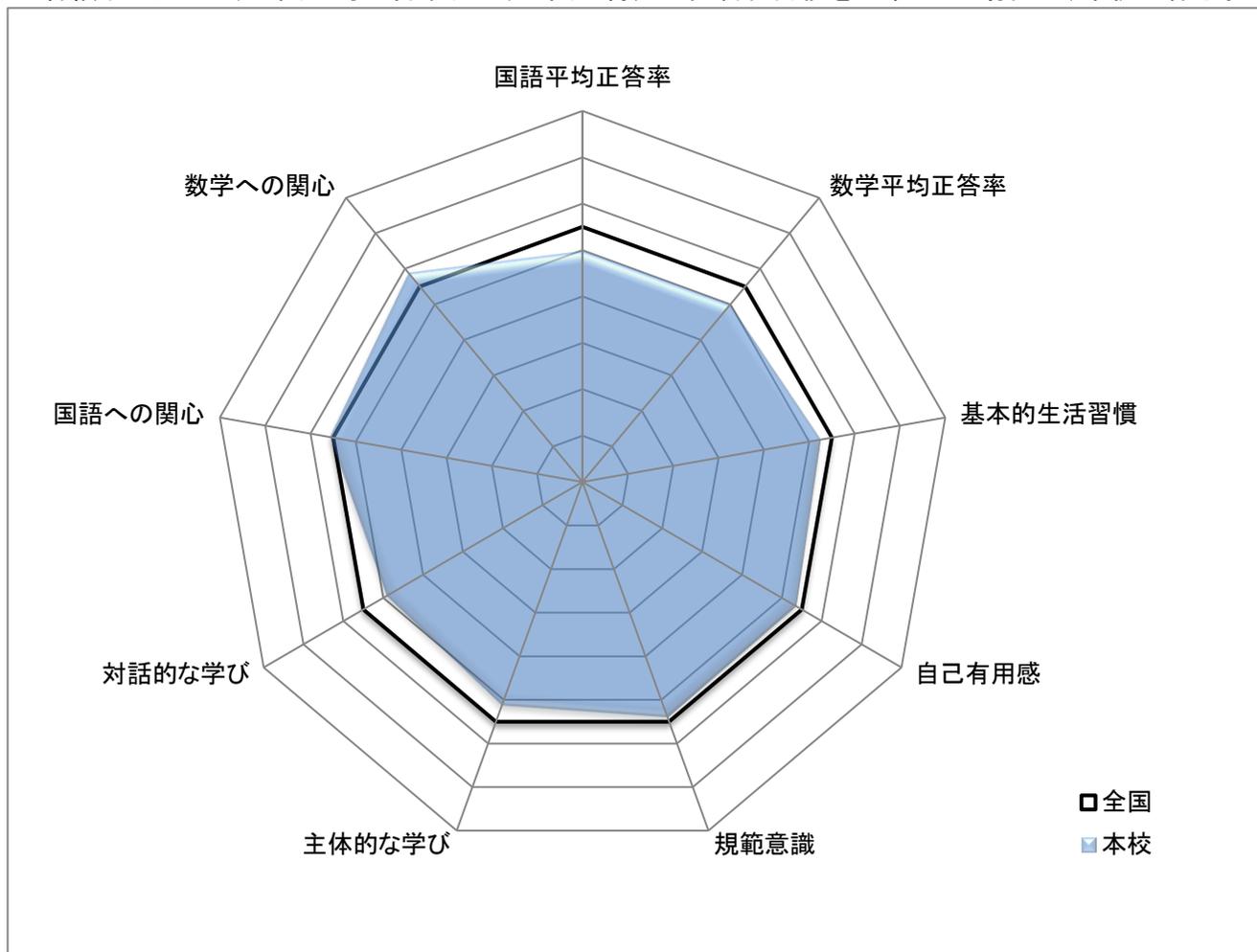


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

家庭学習1時間未満が平日で4割、休日で7割以上という状況が、CD層(特にD層)の割合が高くなる主要因と考えられる。領域別の結果も都平均と比べ、どの分野も同じくらい(10ポイント前後)低い現状も、同様の原因と思われる。

《授業改善のポイント》

学習への関心が高いことから、授業展開・指導の工夫は生徒にフィットしている模様。主体的な学習とはかけ離れてしまうが、家庭学習用の問題集やプリント、ミライシードなどを使った学習計画を、教員側から提示する必要性が高まっているのかも知れない。

《チャートの特徴》

全国平均と比べて、ほぼすべての項目について劣っている。学習に対する関心は高いが、結果(正答率)に反映されていない。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習をするよう、日ごろからの呼びかけをお願いする。